



カトマンズ本願寺に参拝

安芸教区仏教壮年会連盟理事長

財満 賢二



ネパール国
カトマンズ本願寺落慶法要
(2016年3月6日)

カトマンズ本願寺では、前門様ご臨席のもと落慶法要が営まれました。日本から150名を超える有縁の方が参列。私も仏教壮年会の「公開講座」の依頼を兼ね、お祝いに駆けつけました。

カトマンズ本願寺のソナムさんはインド生まれの44歳。26歳の時、インド・ブダガヤでの向坊弘道さんとの出会いがきっかけで、浄土真宗に帰依されます。カトマンズ本願寺の建立は、向坊さんの発願により



第18号

2017(平成29)年
3月28日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 田仲隆行

「朋友」とは、同信のなかま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏社会員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

2003年から始まります。向坊さん往生の後、ソナムさんを応援する日本の有縁の方々の資金援助もあり、10年の歳月をかけて完成を見ます。2015年のカトマンズ大地震を受け、落慶法要が勤まるかが危ぶまりましたが、「カトマンズ本願寺の元気な所を見て欲しい」と言うソナムさんの思いを受け、執り行われました。厳粛な法要はもとより、盛大なレセプションはソナムさんの元気な行動力と共にすばらしさを感じました。

ネパールでは、世界遺産の王宮や寺院など1日かけて市内観光をしました。耐震構造で無い為、地震で相当ダメージを受け、小さなものは倒



壊、王宮ミュージアムなど建物内には入れません。これから先、修復したとしても全ての世界遺産は建物外部から見るだけの観光になりそうです。できるだけ早い復興を願っています。

ソナムさん 広島別院で

公開講座
(2016年3月26日)

カトマンズ本願寺のソナムさんを迎えて、安芸教区仏教壮年会連盟主催で「公開講座」を開催しました。僧侶・寺族・仏教婦人会からも多数の参加があり、好評を博しました。2年間の日本留学だけで流暢な日本語で法話をされます。ソナムさんは、インドの出身なので、法話の中に自力と対比した話がたくさん出てきます。しかし、それが反対に新鮮で心に残ります。ソナムさんのような法話で有れば、広く説教が受け入れられ、20代から50代までの門信徒が増えるのではないのでしょうか。ソナムさんには質疑応答まで精力的にお話をして頂き、夜の慰労会でも熱い思いをお伺いいたしました。

パネルディスカッション

平成28年度第1回評議員会のまとめに、任期最後となります正副理事長・講師によるパネルディスカッションを行い、仏教壮年会連盟の活性化への思いを伺いました。

パネラー 田仲隆行 理事長・高田康博 副理事長・高橋哲了 講師・大原瑞雲 講師
司 会 佐藤治雄 広報委員長

佐藤広報委員長

仏教壮年会連盟の活性化についての思いをお伺いし、評議員の皆さんには各教区にお持ち帰りいただき、更なる活性化に繋げていただきたいと思います。

田仲理事長

仏壮は人材の宝庫だと思っています。いろんな方がおられ、いろんな知識、あるいは技術をもっておられる、そういう方々が仏教壮年会連盟の会員としておられる。

私たちは仕事一筋で、一生懸命仕事ばかりやってきて、お寺との縁が薄く、仏壮への入り口が非常に遠いわけです。何時から仏壮へ関わってきたかというところ、定年をむかえた時からや、病气や家族の死によってお寺にお参りするようになって仏壮を知り、係わりを持った人たちも多いかと思っています。



る訳ですから、そういう処をもう少し検討していく必要があるのではないか。

それから、組織拡充。我々は発足以来50%を

めざしてやっていますが遅々として進まない。その上で、先ほど田仲理事長がおっしゃった仏壮が在って当たり前という状況にする為には、仏教壮年会連盟自体が変わらなければならない。仏教壮年会が無かったらお寺が立ち行かない、そういう仏教壮年会を今から考えていく必要があるのではないか。既存の組織、活動自体の見直しについて、次年度の活動方針の中に重点目標として入っておりますが、そのことが非常に必要になっていくと思います。

そして、高田副理事長は、先ずバトンタッチとおっしゃいましたけれど、人材育成、必ずその自分がトップに立った時にもう次の人材を考えます。そこから人材育成が始まっていくのだというお話であったように思い

お寺の護持発展のためには、総代会が当然在るわけです。総代

は在って当然ですが、仏壮も在って当たり前で、改めて在るとか、無いとか、こんなこと事言わなくてもいい、仏壮は自然に在るものだ、という形にしたいのが私の思いであります。

高田副理事長

今やらないかんのがですね、仏壮に皆さんが入っていただく形にしてゆくことと、後輩に早くバトンタッチをし、その役職を渡していくことです。いつまでも同じ人がそのポストに携わっていてはだめだと思います。それとですね、福岡教区では、結成率60%に達しています。これは、三年ぐらい前に三嶋前理事長が、今の中央の連盟でやっている「寺院仏壮結成に向けた研修会」を各組でやったらどうかという意見を出されました。それに基

いて、福岡教区で始めましたら、8カ寺ぐらい増えました。これは、皆さまぜひやられたら良いと思います。これ効果あります。そして、一つひとつ大事に育てていかないといかん。一気に五つも、六つもではだめです。できるまで、ちよくちよく顔を合わせて、「どうですか」と声掛けをすることですね。各組の理事長さんにこの用紙を出してくださいでは無くて、必ず会うたびに、研修会でもしつこく声掛ける。「できますか、大丈夫ですか」と声を掛けていくことですね。だんだん理事長さんも、やらないかんな、という気持ちが出てくるわけです。そこが大事だと思いますね。

高橋講師

田仲理事長のお話の中で、仏壮は人材の宝庫であるという事、それから、仏壮はお寺に在って

くださるなと思います。仏壮というのはその地域の信頼をしつかりと受けて根ざしている方々がたくさんいらっしゃる、それが仏壮なのだ。そういう方々に支えられて、私は今住職をさせて頂いているという話を聞かせて頂いて、田仲理事長がいう人材の宝庫と言うのはそういう意味なんだろうな。私も今から皆さん方を見る目を変えます。今までは、何となく同じ立場と



当たり前にしたという事を述べて頂きましたが、まさにその通りであります。

この度の伝灯奉告法要の代表者参拜で、前門様がお話していただいたお言葉で、朋友の輪を広げることが大事なテーマですが、ただ仲間を増やすだけでなく、ネットワークを大事にしていく事により、仏壮活動がより豊かなものになるとを期待するとおっしゃられた。「ネットワーク」という言葉の意味するところを我々は真剣に検討していただかなければいけない。何をネットワークとおっしゃったのか、どういうネットワークを作っているのか、単純に情報通信上のネットワークという言葉でお話をなさったのでは無いと思います。そこに、人材の宝庫と田仲理事長がおっしゃった事が絡んで来るのではないかと。どういうネットワークが実際に我々仏教壮年会連盟でできるのか、せっか



くこの組織を持ってい

仏壮があつて当たり前、自然に存在する、なんと素敵な言葉で抑えていただきありがとうございます。

田仲理事長

今、私たちは仏教壮年会のある者ばかりで集まって会議をしております。しかし、無い人たちの係わり方をどうやってアプローチして行くかというのが、本当に難しく、我々がずっと最初から抱えている問題です。私たちの願いは、やっぱり、総代が在るように、仏壮も在って当たり前じゃないかという言われ

高田副理事長

私の組では、今度の理事長さんは、全体的に若くしようという事で、51才の方が引き受けてくれました。51才です！今、ご門主が39才ですからね、一回りとちよつとで丁度良いぐらいかと思っております。60代にしては、ご門主との年齢差が親子ほどの年齢差になって、バランスちゅうのがありますからね。皆さんも常に全体を見て、バランスで仏壮の中に若い人に入っていたでいて、活発な活動をしていただいくようにされたら良いと思います。

2016(平成28)年度仏教壮年会連盟 「中央研修会」開催報告

仏教壮年会連盟 評議員(大分教区)

研修委員会委員 平松 幹雄



2017(平成29)年2月18日(土)～19日(日)にかけて、伝道本部と聞法会館において「中央研修会」が開催されました。

全国24教区より41名の仏教壮年会員の参加を頂き、講師、連盟理事、研修委員等総勢59名が熱い思いをこめて、2日間語り合いました。

1日目は伝道会館3階で受付をすませ、開会式にのぞみました。開会式後、福田研修委員長の「研修のねらい」の話があり、法話、講義に入りました。大原連盟講師より「浄土真宗のみ教えとは、お念仏のおみのりに出遇えたよろこびをむねに、いつでも、どこでも、だれにでも真にやさしい思いやりのある阿弥陀さまに気付かせていただく教え」とお話をいただきました。つづいて、谷間連盟講師による家族とご縁づくりということの問題提起があり、ある少年の作文から「学校からの帰り道、よその家の垣根の間から見える赤

く熟れた、おいしそうなイチゴの実を、黙っていただこうと思つて手を出した時、どこからか、「阿弥陀さまが見ているよ」という声が、聞こえてきました。あわてて、手を引つこめて、走つて家に帰つて、母へその話をしました。母はやさしく私の手をとつてお仏だんの所につれていき、阿弥陀さまの前にすわらせて、後ろから私をだきしめて、両手をそえて、私の手を阿弥陀さまの前で合掌させてくださいました。その時の母のあたたかさは一生涯わたすれることはできません」というお話がありました。

その後、場所を聞法会館3階と変えて、6班に別れて話し合い法座が開かれました。どの班も活発な意見がかわされ、全体会の班別発表へと続きました。全体会で一番、印象にのこっているのは「仏さまとご縁があつたおかげで、来月仏前結婚式をあげることができます」と



合掌

いう、うれしい話でした。午後7時から出席者全員がたのしみになっていた、夕食懇親会があり各地より持ち込んだ地酒をくみかわしながら、笑顔で自由な意見交換をしました。

2日目は義本連盟講師より「法名の意義と説明」を話していただきました。つづいて各班代表のパネリストによるパネルディスカッションがあり、座長を宮南副理事長・補佐役に高橋連盟講師になつていただき「ご縁にであえた、私のよろこび」というテーマで話し合いを展開しました。高橋講師の的確な助言もあり、活発な意見でおおいに盛りあがりました。

最後に谷間連盟講師より「まとめ」をしていただき、2日間の研修を無事に終了しました。

◆新規単位登録名簿

2016(平成28)年12月1日～2017(平成29)年3月28日

教区	組	寺	単位会名
四州	徳島西	安楽寺	美馬安楽寺仏壮
四州	徳島西	安楽寺	脇町安楽寺仏壮
安芸	佐伯西	専念寺	専念寺仏教壮年会

登録単位数 2578 単位

第22回全国仏教壮年東北大会

■会場 仙台市民会館
■開催日 2017(平成29)年9月2日
■テーマ

ともにいのち輝く
朋友の笑顔

みどりの式章で会場をいっぱい!!!

